

にらの植え付け深度について

1. 試験のねらい

にらの定植時における植え付けの深さが、収量及び品質に及ぼす影響について明らかにするため、試験を行った。

2. 試験方法

品種はグリーンベルトを用い、最終的な植え付け深さは、2.5, 7.5, 12.5, 17.5 cmの4段階とし、深さ7.5 cm以上の区には、定植時の深さ及び土入れの時期を組み合わせた区を設け、表-1のとおり計13処理区とした。は種は昭和61年3月25日に条間15 cmの条播きで行い、定植は7月17日に栽植距離60×25 cmの2条植えとした。試験規模は1区2.1 m²(14株)2区制とし施肥量はN 45, P₂O₅ 4.5, K₂O 3.6 kg/a施用した。定植後の土入れは8月7日、8月29日の2回実施した。保温は昭和62年1月9日に開始して、収穫は2月12日、3月3日、4月2日、4月30日の4回実施した。

3. 試験結果及び考察

株養成期間中の生育は、一部病害の発生がみられたが、全般的には順調で、処理間に大差は認められなかった。

生育中の茎数の推移は表-1のとおり、処理間による差は判然としなかったが、収穫時の茎数では深植え区のものほど少なくなる傾向が認められ、深植えは分けつを抑制する効果があるものと思われた。土入れの有無及び早晚による差ははっきりしなかった。

収穫時における葉幅は、植え付け深さ2.5, 7.5 cmの浅植区でやや狭く、深植区では広くなる傾向が認められ、茎数と逆の関係がみられた。

収量は図-1のとおり、定植時の深さ別では、深植区のものほど低収傾向が認められ、同一深さ間では、土入れの遅い区のもので低収傾向がみられた。

4. 成果の要約

定植時における植え付け深さと収量・品質との関係を検討した結果、浅植えでは収量は高いが、茎数多く、葉幅が狭い等品質的に問題があり、深植えは収量が低く、現在標準的な10 cm位が適度の深さと思われた。

(担当者 野菜部 和田悦郎)

表-1 生育及び葉幅

No.	植え付け深さcm	茎 数			本/株	収穫時の葉幅 mm					草 丈 cm	
		8.7	9.4	10.21		収穫時	1回目	2回目	3回目	4回目		平均
	定植時① ②											
1	2.5-0-0	7.4	8.7	16.0	37.2	101	8.5	7.0	6.8	8.1	39	
2	7.5-0-0	7.5	8.2	14.5	29.8	10.1	8.7	6.9	6.6	8.1	39	
3	2.5-0-5	7.5	9.0	15.4	28.6	108	8.8	6.9	6.3	8.2	39	
4	12.5-0-0	7.6	8.8	13.9	26.4	11.5	9.9	7.2	6.8	8.9	39	
5	7.5-5-0	8.0	8.7	13.4	29.9	11.2	9.9	7.3	6.5	8.7	40	
6	2.5-10-0	7.9	8.9	13.3	26.6	11.6	9.6	7.7	6.7	8.9	38	
7	2.5-5-5	7.2	8.8	14.8	27.3	114	10.0	7.5	6.5	8.9	39	
8	2.5-0-10	7.7	8.7	15.9	24.7	11.4	9.9	7.3	6.6	8.8	39	
9	17.5-0-0	7.4	8.0	11.2	23.4	11.5	9.9	7.4	7.0	9.0	39	
10	10-7.5-0	7.7	8.2	10.5	21.6	11.2	9.9	7.9	6.6	8.9	39	
11	2.5-15-0	7.4	8.2	12.2	22.2	11.6	9.6	7.8	7.0	9.0	40	
12	2.5-7.5-7.5	7.8	8.5	11.9	20.3	10.5	9.8	7.6	6.5	8.6	39	
13	2.5-0-15	7.9	8.9	15.4	24.8	108	10.2	7.5	6.3	8.7	39	

注 ① 8月7日 ② 8月29日 土入れ

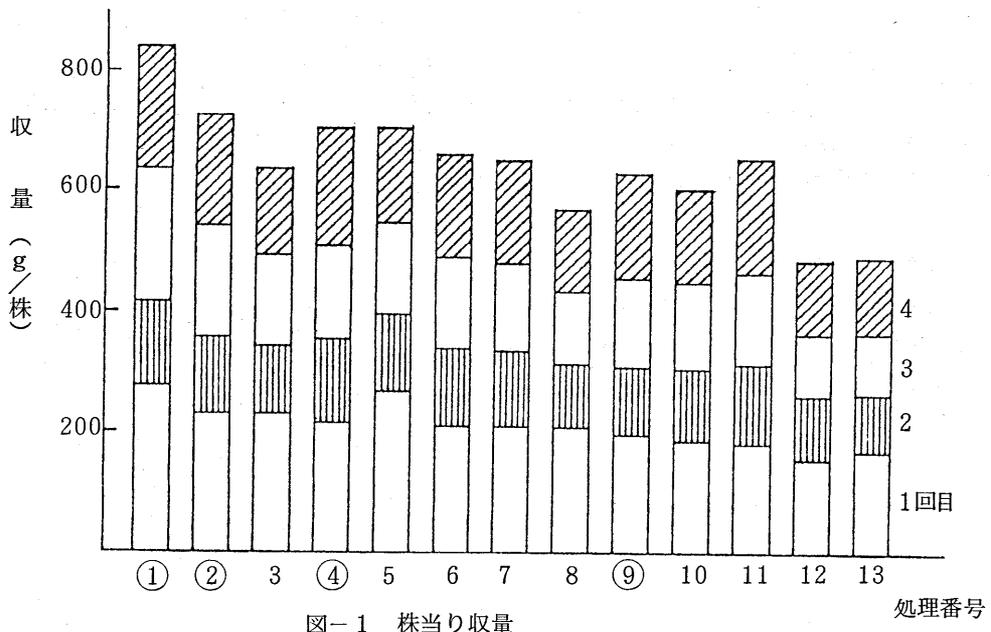


図-1 株当たり収量